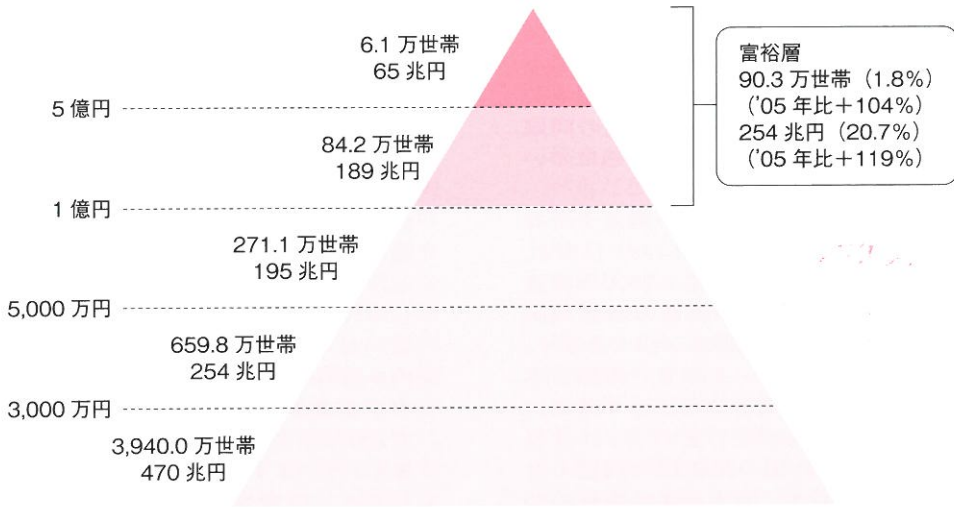


図1 日本における個人金融資産分布 (2007年)

日本の富裕層は世帯数では1.8%だが、個人金融資産では20.7%を占める



〔出所〕 アブラハムグループホールディングス作成

が違いますが、今までの財産債務の明細書自体よりも、国外財産調書のほうがいろいろ規制があるものになります。富裕層とは何かといいますが、一部の定義では純金融資産、いわゆる不動産や負債を除いた金融資産をネットで1億円以上持っている人のことです。この富裕層がどの程度存在するかといいますが、日本で約90万世帯、世帯数でいいますと1.8%ぐらいですが、持っている資産が254兆円で、資産のパーセンテージでいえば20.7%を占めるということになります。現在、富裕層の規模は、1位アメリカ、2位日本、3位中国という順番になっていますが、近々中国に抜かれそうです。しかし資産家は相当日本にはいるといえるかと思えます。

それからオフショア預金ですが、これは自国を離れて海外に所在する預金のことと考えていただければよろしいかと思いますが、OECDの調査によると、タックスヘイブンの匿名口座に預けられている資金総額は50兆ドル～70兆ドルぐらい、1ドル80円換算しますと約400兆円～約560兆円といわれ、相当な金額が実は海外にあるということがおわかりいただけるかと思えます。

その受け皿としては、例えばスイスが一番有名だと思いますが、スイスは銀行数が2005年でいいますと337行あり、資金総額約5兆スイスフラン、日本円にすると約400兆円あります。少し前ですが、アメリカでスイスの最大手の銀行のUBSがトラブルを起

し、5万2,000人のアメリカ居住者の預金口座があるということがわかってしまいました。これをみてわかると思いますが、スイスの銀行にある預金というのは、スイス国民の預金ではないのです。ほとんど外国からの預金だと考えていいと思います。

それからタックスヘイブンで名前が出ましたケイマン諸島、これは2008年で、人口は5万弱ぐらいの島ですが、銀行数が300行とも500行ともいわれています。ここの預金総額がだいたいカリフォルニア州の預金総額と同じだといわれています。カリフォルニア州が仮に独立すると、経済力が世界で10番目ぐらいにランキングされる地域なのです。それと同じぐらいの預金量を持っているケイマン諸島の人口が5万人弱ということですので、いかに海外に多額の預金があるかということが客観的にわかります。OECDをはじめとして多くの国がこの富裕層の課税について非常に関心を持っているということは、最近の傾向としてあるかと思えます。

それから「永遠の旅人」ですが、これは新聞に報道され、国税庁もすぐに反応しまして、ホームページに確か「永遠の旅人」のQ&Aが出ているかと思いますが、いわゆる住所の問題です。「永遠の旅人」とは、世界の数カ所に住む場所を持っていて、そこを転々としていく人のことをいうわけで、居住者としての課税を逃れたり、場合によっては相続税のない国を利用することによって、相